

とがち高等教育推進まちづくり会議 企画・事業部会

令和元年度 検討状況報告

I 取り組みの方向性

昨年度までに確認した本会議の取り組みの方向性は以下のとおり。
令和元年度は、「食品安全管理のスペシャリスト養成」「若者の地元定着と地域課題解決の促進」を中心に進めた。

(1) 地域ぐるみの人材育成

- ① **食品安全管理のスペシャリスト養成★**
- ② 地域連携による国際水準の獣医師養成 ※欧州獣医学教育国際認証を取得
- ③ アグリ・フードビジネスのマネジメント人材養成

(2) 人材活躍の場・環境づくり

- ① **若者の地元定着と地域課題解決の促進★**
- ② 人生100年時代を見据えた生涯学習の支援
- ③ 地域産業の活性化

Ⅱ 食品安全管理のスペシャリスト養成

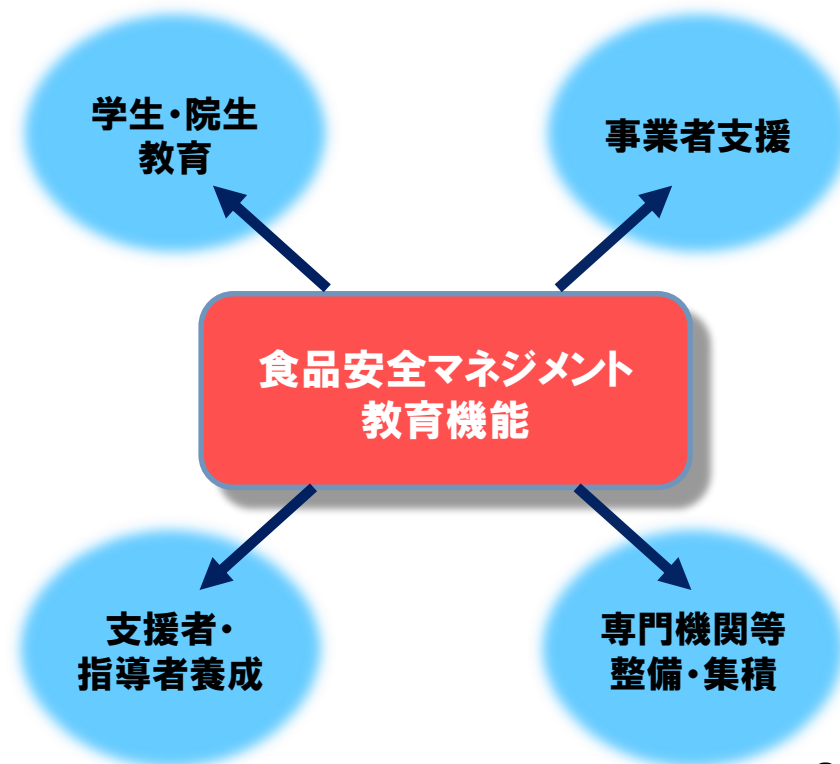
食品安全マネジメント教育機能の基盤強化に関する調査研究

○目的 食品安全マネジメントの人材育成や支援の継続的な実施に必要な人員体制など基盤強化をはかるため、**事業者ニーズ等の基礎的な調査研究**を実施

○内容

- 1 食品安全関連法制の概要
- 2 食品安全に関する国際的な動向
- 3 食品安全に関する取引慣行
- 4 HACCP認証制度の現状
- 5 食品安全に関する職種及び資格
- 6 学生の進学動向
- 7 大学における教育・研究・社会貢献の状況
- 8 事業者等の現状と人材ニーズ
- 9 まとめ

※ 詳細は資料3の調査研究報告書を参照



Ⅱ 食品安全管理のスペシャリスト養成

■ アンケート調査

○ 送付数・回答数・回収率

区分	十勝管内	北海道内	計
送付数	79件	121件	200件
回答数	25件	48件	73件
回収率	31.6%	39.7%	36.5%

注) 十勝管内は、ホームページで確認できるHACCP認証事業所43件のほか、HACCP意見交換会（帯広畜産大学、とち財団、帯広市）において調査対象を抽出した。

北海道内は、ホームページで確認できるHACCP認証事業所から抽出した。

なお、対象としたHACCP認証は、FSSC22000、ISO22000、SQF、JFS、北海道HACCCPのほか、北海道の「HACCPに基づく衛生管理導入評価事業」でA評価を受けているものとした。

■ ヒアリング調査

○ 調査対象：首都圏に所在する審査機関・監査会社等や、大規模の食品関連企業 18社

業種	ヒアリング企業数
審査機関・監査会社等	5社
小売業	3社
卸売業	2社
製造業	7社（うち中小企業1社）
外食業	1社

Ⅱ 食品安全管理のスペシャリスト養成

■ アンケート調査結果の要約

- **FSSC等は大規模企業**ほど取得割合が高く、**北海道HACCPは小規模企業**ほど取得割合が高い。
- **認証取得の動機として、食品の安全性向上が最多**であるが、取引上、必要になってきている事情もうかがえる。特に、**FSSC等では海外輸出**の割合が、**北海道HACCPでは取引先拡大**の割合が高いほか、**小規模企業では取引先の要望**があったためとの回答が、相対的に多い。
- 食品安全に係る人材の確保策として、**基礎知識を持つ人材の新卒採用よりも採用後の社内教育の意向が強い**（特に、大規模企業やFSSC等の取得企業）。ただし、育成に要する時間や**指導人材の不足**、**現場の実情に即した研修内容**や普及定着について課題がうかがえる。
- 基礎知識を持つ人材の**新卒採用の意向は、大規模企業で相対的に強い**が、現場経験の重要性、他の知識・スキルとのバランスを求める意見のほか、人材確保自体の困難さも指摘されている。
- **即戦力の中途採用**について、一定のニーズがうかがえる。

Ⅱ 食品安全管理のスペシャリスト養成

■ アンケート調査結果の要約

- 学生時代に受けてほしい研修として、一般衛生管理研修で91.4%、HACCP研修は83.3%の企業が「受けてほしい」「どちらかといえば受けてほしい」と回答。一般衛生管理研修は小規模企業ほど意向が強く、HACCP研修は中規模企業の意向が強い。
- 社内人材に受けさせたい研修として、一般衛生管理研修で76.7%、HACCP研修は76.8%の企業が「ニーズがある」「どちらかといえばニーズがある」と回答。一般衛生管理研修、HACCP研修とも、大規模企業ほどニーズが強い。
- 内部監査員研修は、学生時代のニーズが54.3%、社内人材のニーズが60.3%となっている。FSSC等の取得企業で相対的にニーズが強いほか、学生時代のニーズは中規模企業で、社内人材のニーズは中～大規模企業で強い。
- 十勝地域での研修受講ニーズとして、危機管理研修が最多で、商品開発・設備保全がこれに次ぐ。道内企業のニーズも少なくないが、距離的な難しさから、札幌開催や、eラーニングを望む意見も見られる。

Ⅱ 食品安全管理のスペシャリスト養成

■ヒアリング調査結果の要約

- ① 食品安全に係る人材には、**一般衛生管理やHACCP、食品安全マネジメントシステムの知識**のほか、**製造や品質管理の現場経験**が必要とされている。また、微生物に関する知識やスキルを求める企業も多い。
- ② **新卒者には、HACCPの概要などの基礎的知識を求める意見が多い**が、採用後直ちに品質管理部門に配属されることは少なく、**複数部門を経験した後に適性を見て配置されることが多い**。審査機関・監査会社等や外資系企業では、中途採用が少なくない。
- ③ 大手製造業では、社内教育の仕組みが確立しており、社外研修はISO関連等の専門的なものが中心。一方、小売業や卸売業、**中小製造業では、社内のリソース不足**や専門外からの配属もあり、**外部研修の受講機会が比較的多い**。
- ④ 課題としては、**審査員・監査員の高齢化、指導人材の不足**のほか、自己研鑽や社内エキスパートへの依存、食品安全マネジメントシステムの必要性や実践に関する理解不足、科学的根拠の不足などが見られるほか、食品安全に求められる事項の増加に対する不安も見られる。

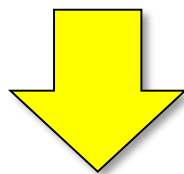
Ⅱ 食品安全管理のスペシャリスト養成

食品安全マネジメント教育機能の基盤強化に関する調査研究 まとめと考察

HACCPが国際標準化する一方、大学の人材育成等の機能は限定的

食品安全に係る人材に対する企業ニーズは大きい

帯広畜産大学の有する優位性や可能性は大きい



地域の推進体制の構築に向けて検討

Ⅲ 若者の地元定着と地域課題解決の促進

■若者が牽引するしごとづくり・まちづくりプラン推進事業 (平成27年度～令和元年度)

目的

学生が主体となって地域のしごとづくり、まちづくりに貢献するための事業を帯広畜産大学と連携して推進し、地域産業の競争力強化、中心市街地活性化等の地域振興に資するとともに、学生の地域愛を醸成して大学卒業・大学院修了後も十勝・帯広の応援団として一層活躍できる地方創生循環モデルを構築する。

内容

① 地元企業と学生との共同研究を通じた地域産業強化支援

② 学生活動の展開による地域活性化支援

■十勝ジングスカン会議

■ちくだいらんぷプロジェクト

(地方創生・地域活性化、おびひろ動物園活性化、文化・スポーツ)

■学生の地域理解の向上と自主性の獲得を目的とした学習環境の整備

(キャリア教育、十勝旅、経営者と「ガチで」学ぶ交流会×勉強会、とかち学)

Ⅲ 若者の地元定着と地域課題解決の促進

■ 取組事例



十勝産小麦を用いた食パンとライ麦パンの開発
(出典：帯広畜産大学ホームページ)



十勝地域の生産者・農産物紹介ホームページ作成
(出典：帯広畜産大学ホームページ)



繁殖用高齢羊を用いた畜産加工品の開発
(出典：とちか財団ホームページ)



ミツバチの飼育方法の確立と市民理解の促進
(出典：十勝毎日新聞ホームページ)

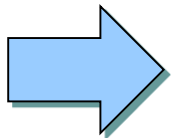
Ⅲ 若者の地元定着と地域課題解決の促進

■これまでの主な成果

- 新たな発想に基づくまちづくり活動の拡大
- 商品開発の進展や起業家の「卵」の輩出
- 十勝への理解を深める体系的な教育プログラムの展開

■今後に向けた課題と方向性

- 管外就職の増加傾向
- まちづくり活動の具体化の難しさ
- 学生の主体性と現場の課題とのバランス



- ★ 企業や関係機関・団体などとの関係の拡大
- ★ 将来の「関係人口」の育成
- ★ 想いやアイデアを形にするスキルの向上

Ⅲ 若者の地元定着と地域課題解決の促進

■ 企画・事業部会における意見

① 学生と地元企業との接点拡大

- ・ 学生の地元定着には、地域産業の魅力や成長性、待遇面などを的確に伝える必要がある。
- ・ 奨学金の返済など、金銭面の事情が居住地の選択に影響している中で、地元企業の魅力が十分に伝わっていない。企業から学生に情報提供できると良い。
- ・ 地域産業の魅力を伝えるなど、学生と企業の接点を広げられると良いと思う。らんぷプロジェクトの公募後に、地元企業への提案などを工夫しては。
- ・ 学生と地元企業が協力し、新しいビジネスを育てる機運を高めていけると良い。

② 関係人口の育成

- ・ 関係人口の視点は面白い。十勝を離れてもつながりを保てるよう、業界紹介などを含め、「とかち学」の場などをうまく活用してほしい。

③ その他

- ・ 地元定着には、管外からの流入ばかりでなく、管外流出者のUターンも重要。企業の協力を得ながら、仕事や暮らしなどの面を含めて対応していく必要がある。
- ・ ワインやバイオマスなどをはじめ、高等教育の知見がほしいとの声がある。課題の解決に向けた取り組みを期待したい。

Ⅲ 若者の地元定着と地域課題解決の促進

■ 令和2年度以降の方向性

事業名

学生と地域がつながるまちづくり支援事業

目的

帯広畜産大学と帯広市が協力し、関係機関と連携しながら、学生が十勝について学び、関心を高める実学教育・キャリア教育の充実や、学生による自主的なまちづくり活動の支援に取り組み、在学中から卒業後までを見据えた学生と地域とのつながりを強化することを目的とする。

内容

① 関係人口候補化プログラム

学生が十勝について学び、理解を深めることで、地域への興味や関わりを持ち、自主的に十勝とつながるきっかけづくりを目指す。

② アクション支援プログラム

学生が企画・実施するまちづくり活動を支援することで、地域愛の醸成や新たな視点からの地域活性化を図る。

Ⅲ 若者の地元定着と地域課題解決の促進

関係人口候補化プログラム

(令和2年度実施事業)

① 十勝について学ぶ地域連携型授業の実施

- とかち学 十勝の歴史、文化、自然、産業、地方創生などについて、行政、企業、地域団体等から講師を招き、現状や課題、将来展望について学ぶ。
- キャリア教育・全学農畜産実習 十勝の特色や帯広畜産大学の歴史などの理解を深めるほか、実際に地域で活動している学生の話聞く授業を実施し、十勝について理解を深める。

② 現場を深く知る課外教育の実施

- 十勝旅 中小企業家同友会とかち支部と連携し、農畜産業の生産から加工まで一連の現場を巡り、農業・企業経営者の取り組みや思いを知り、理解を深める。
- 経営者とガチで学ぶ交流会×勉強会 北海道中小企業家同友会とかち支部の勉強会において、学生と経営者が同じテーマで協議や交流を行う。

③ 学生と十勝をつなぐプログラムの開催【新規】

- とかち財団LANDでのミーティングイベント（仮称） 学生の関心が高いテーマによる住民参加型のトークセッション等を行い、学生が地域課題などへの理解を深め、地域とつながる場を提供するとともに、学生の自主的な活動の具体化を促す。

Ⅲ 若者の地元定着と地域課題解決の促進

アクション支援プログラム

(令和2年度実施事業)

① 企画運営の体験機会の提供【見直し】

■十勝ジングスカン会議

地域住民に親しまれている大規模イベント「十勝ジングスカン会議」への参画を通じ、事業の企画運営に関する経験やスキルを高める。

② 地域活性化に向けた自主的活動の促進

■ちくだいらんぷろジェクト

地方創生・地域活性化、動物園活性化、文化・スポーツの3コースで学生のアイデア実現を資金面・内容面からサポートし、学生の自主的なまちづくり活動を促進する。

③ 地域産業の活性化支援【見直し】

■学生と地域企業の共同研究

関係人口候補化プログラムなどを通じて把握した地元企業の課題やニーズを踏まえ、教員の指導のもと、学生が主体的に提案する形で共同研究を実施する。

IV 今年度の取り組み

3大学の経営統合に向けた動きと連動しながら、以下の取り組みを推進

(1) 地域ぐるみの人材育成

① 食品安全管理のスペシャリスト養成

地域の推進体制の構築に向けて検討

② 地域連携による国際水準の獣医師養成

※協議終了

③ アグリ・フードビジネスのマネジメント人材養成

国内外の先進事例に関する調査研究

(2) 人材活躍の場・環境づくり

① 若者の地元定着と地域課題解決の促進

学生と地域がつながるまちづくり支援事業の実施

② 人生100年時代を見据えた生涯学習の支援

リカレント教育

③ 地域産業の活性化

共同研究 など